

日吉山王関係目録稿(一)

田嶋 一夫
小峯 和明

一 本目録稿は、山王神道に関する資料のうち、叡山文庫と東京大学史料編纂所の蔵する写本類を中心に整理したものである。数点ではあるが内閣文庫、東京大学総合図書館の資料も加えた。この他早稲田大学の教林文庫に三十数点存在するが、これは加えていない。しかしこれについては「早大図書館蔵教林文庫目録稿」(『調査研究報告』六号)の中に、他の資料と共に整理してある。叡山文庫のものは未だ網羅していない。元の所蔵者を略名で説明したところまでである。

一 目録稿作成にあたっては、文学研究の立場から必要な資料を見極めることを目的とした。整理の項目は、書名、印記、奥書に重点をおいて整理し、装幀、大きさ、丁数を加えた。またメモを書添えたものもある。

一 書名については、外題、内題等をとった。この種の資料は書名の異同が多いと思われる、資料の同定が難しいからである。記述に当たっての見出し題は、原則としてそれぞれの所蔵者の目録における見出し題

をそのまま使った。閲覧の便を考えたからである。その他に外題(直書の場合) ↓外、題箋に記されている場合 ↓箋、内題 ↓内、等とした。また内題が幾つか有り、表記が異なっている場合、内題の位置を(扉(目録題)等のごとく示した。

一 奥書については、本の伝来を把握する資料として、本奥書までとることにつとめた。

一 書目の配列については、書名の五十音順とした。同一の書名の中では書写の古いものの順とした。

一 虫くい、よごれ等で読めない文字は*(アスタリスク)におき変えた。
一 現所蔵者及び保管者の名は略名にしたが、それぞれは次のようなものである。

叡山 無：無動寺谷蔵書 叡山東塔の明徳院内の無動寺谷の什善坊
真超が天明→享和年間に筆写・収集したものが中心。
叡山 吉：叡山南谷吉祥院蔵書。

叡山 水：水尾蔵書 水尾寂暁師（一八七七～一九四二）の旧蔵。

叡山 別：別当代蔵書 叡山横川別当代旧蔵。

叡山 華：華蔵院蔵書 叡山横川の華蔵院旧蔵。

叡山 生：生源寺蔵書 叡山西塔の生源寺の旧蔵。

叡山 法：法曼院蔵書 叡山東塔の法曼院旧蔵。

叡山 止：止観院蔵書 叡山東塔止観院伝来の資料。

叡山 葉：葉樹院蔵書 叡山東塔葉樹院旧蔵の資料。

叡山 戒：戒光院蔵書 堀恵慶（一八六七～一九五七）の旧蔵資料。

叡山 明：明徳院蔵書 叡山東塔明徳院旧蔵。

叡山 池：池田史宗蔵書 池田史宗（一八七六～一九六四）の旧蔵資料。

資料。

内閣 ……内閣文庫蔵本。

東大総合……東京大学総合図書館蔵本。

東大史料……東京大学史料編纂所蔵本。

- 一 これはあくまでも中間報告であり、今後さらに調査を進めるとともに、書目をまとめ目録としての完成を期したいと思う。永い期間にわたって、また目録にまとめることを前提とせずにおすすめした作業であるため、不統一の点がきわめて多くなっていることをおことわりする。
- 一 調査に御協力下さった所蔵者各位、ことに長期間にわたって調査させていただいた叡山文庫に感謝申し上げます。

（付記一）本稿は、一〇数年前より田嶋が機会あるごとに調査を続け

てきたものをもとに小峯氏の他播摩光寿、竹村信二、前田雅之、吉原浩人の諸氏の協力を得て作成したものである。

（付記二）昭和六一年度科研究一般研究（C）（課題番号61510223）による研究の一部である。

叡山再興縁起（叡山 止／内9／3／8）

比叡山再興縁起（外箋）

比叡山縁起根本中堂^(a) 延暦寺戒壇再興縁起^(b) 山門無動寺堂社再興縁起^(c)

比叡山浄土院縁起^(d)（扉）

27・1×19・3 9丁

山門無動寺蔵（墨） 沙門真超（朱）

（メモ）(a)天正十二年五月 日探題法印豪盛敬白、(d)は、天正十二年八月

で終わる。江戸中期以降の書写か。

叡山雜記（叡山 無／丙35／4／1027）

叡山雜記 天・地（外・内）

27・4×20・2 天・44丁 地・49丁

山門無動寺蔵（墨） 沙門真超（朱）

奥書、文政八年乙酉三月中旬日以無量院慈本之手本令書写之 台嶽執

行探題大僧正豪実識（天）

文政八年乙酉三月下旬日以無量院慈本之手本令書之 台嶽執行探題

大僧正豪実識

（メモ）天 雜記目録

開山堂侍真条制

宝永四年座主条制

椿堂聖徳太子未來記

椿堂正法輪蔵拔書

本覚院慈惠大師像縁起

迅雲弥陀像記

蓮実坊大師乱拔ノ事拔書

薬樹院金宗状行銘

黒谷青龍寺ノ記ノ写

同寺良雄伝

智光院快磐僧都墓誌

即心院智梁律師伝

筑前現光院豪秀像記

真盛上人伝ノ中ノ抄出二件

諸門跡一身阿闍梨解状

西塔院釈迦靈象還座記

園城寺正法精舍鐘銘

播州増位山顕性社叙

（地一略）

叡山仏閣記坂本神社仏閣記（叡麓仏閣神社記）（叡山 無／丙35／1／1024）

叡山仏閣記 乾（外）（上巻のみ）

近江州滋賀郡坂本神社仏閣記（内・端作り）（下巻）

上―53丁、下―28丁

奥書、元禄十六年癸未六月日 執行代

執行代（上・下同じ）

(メモ)山門堂舎記に同内容

延暦寺領記〈叡山 無／丙35―9／1032〉

延暦寺領記(外箋) 比叡山延暦寺寺領(内)

27・0×19・3 28丁

沙門真超(朱)

本奥書、右一冊者宝曆七丁丑年関東下向之御止宿東叡山勸善院一日相

*泉屋守純之書籍画得此書^{予と}之即授以納明王同藏置去也 止七月廿

八日 善佳院慶龍(花押)

奥書、寛政十年戊午初秋以本溪明王堂之本令書写之者也 什善坊大僧

都真超

(メモ)比叡山の院・堂・坊・旧跡などを三塔十六谷に分け、一つ一つに

簡単な説明を付す。

はじめに、全山の石高「五千石」の割合を示す。それによれば、

千三百五拾石―堂領社領其外諸役者下行料

三千六百五拾石―百四十坊之寺領也

うち「十坊寺領、天海大僧正之時付」とのこと

樹乃下乃御法〈叡山 無―乾28／16／800〉

樹乃下の御法(外・内)

27・1×19・3 33丁

山門無動寺蔵(墨) 沙門真超(朱) 護国金剛

奥識、寛政七年乙卯春以探題僧正覚深御本之写令書写之畢 延暦寺住

学生大僧都真超謹記

(メモ)本之

右は延宝第五弥生晦日に横川の桑木門釈覚深病のいたはりにふし
なからみしかき筆をとり浅き硯の水をすすきてしるし付侍りぬ。

これたかきりなき神恩を報し奉らんとの徴志をはけますどはか
りなり。あるかしこすめるひとのみるべきにはあらず。みんな
ほまつみをゆるしたまへ。

樹の下の御法〈叡山 水／外1／7／214〉

樹の下の御法(外) 内題なし

27・9×19・9 37丁

一乗止観院(墨)

(メモ)奥書なし、江戸後期の書写

御流神道伝授口記〈叡山 戒／外1／3／880〉

御流神道伝授口説 上人記(外) 御流神道口決(内)

23・16×16・4 八冊

山王一実神道灌頂深秘法 日光山〈叡山 戒／外1／4／412〉

山王一實神日光山塔中灌頂最秘々中深秘法(外)

12・6×36・0 折本

奥書、一実神道頗如合璧今持以附興弘前藥王精舎覺範 法印畢云清淨

金剛亮長

(メモ) 三丁之 後水尾帝震筆授与天海僧正也

四丁ウラより開眼深秘法

六丁ウラより一実神道相承血脈

最澄より天海を経て法印覺範―太守寧親公まで

山王御本地供 〈叡山 戒／外1／9／481〉

山王御本地供 (外)

摩利支天供 (外)

12・4×17・3 17丁 (8丁+9丁)

奥書、于時弘化^二乙^一七月 一乘房泰通書写之

山王権現縁起 〈叡山 水／外1／9／167〉

山王大権現縁起 (外) 内題なし

27・6×20・2 23丁

本奥書、皆元禄八載龍集乙亥孟夏之吉 台山蘊陀峯鶏足院住 法印大

僧都擬講覺深識

奥書、天明七丁未歲立秋大吉祥日石本義雄写之

慶応元丁丑歲仲夏

(メモ) 本文漢字のほとんどのルビあり

山王権現御鎮座御事 〈叡山 無／乾28／1／785〉

山王権現御鎮座御事 (外、内)

27・2×20・0

山門無動寺藏 (墨) 沙門真超 (朱)

本奥書、本云応永九年^五 乙未六月十二日山門本院西谷浄定院坊快源記之、

承応三年三月吉日書之、嵯峨二尊院以本書之、 江州粟太郡盧浦

觀音寺法印舜興藏

奥書、文化十一年甲戌七月以鶏頭院藏本令書写之 台嶽南峯大僧都真

超

(メモ) 一大宮権現ト申ハ大和国三輪ノ社ヨリ御影向……

一、二宮権現云々

山王権現秘記 〈叡山 別／外1／5／161〉

山王権現神記 (外) 山王秘記 (内)

27・1×19・4 13丁

本奥書、級依智信阿闍梨記*守一流記録説如形所令記也真慮有憚取不

可及救露^坂深可秘惜者也耳

于時正和元年十月廿日於東塔神藏寺許比丘光宗 遍照金剛義源

于時康永二年^大癸未五月十一日於結州昇物部門宗寺東窓西三宝守護終

書之切一乘末資 定祐

永和二年卯月十七日 遍照金剛了* 於常別*尾山書写^五二月廿

二日 朝慶 亮清

応永二年乙亥十二月廿三日書写之 常別筑波山麓青鳥山熊野堂読所ニ
テ書写之

奥書、比叡山南山無動寺於覺恩傍書写之

応永十四年乙亥三月廿二日

(メモ)表紙左下に別当代蔵とあり

印記なし

山王七社略記〈叡山 無一乾28/33/81〉

山王七社略記戸津説法々々(外・扉)内なし

23・9×16・7 14丁

山門無動寺蔵(墨) 沙門真超(朱)

本奥書、天正十六年内供奉存心受深題豪仁説記之云々

正徳三年癸巳四月念三日借三院庫本令弟子天忠書

奥書、文化十一年甲戌十二月中旬以雞頭院蔵本令書写之 台嶽大僧都

真超

(メモ)天正十六年六月二十日より七月二十一日までの東南寺三十講(戸

津説法)のうち、初七日を「山王権現御法楽」として、豪仁が山

王の縁起等を説いた内容を記したものの。七日間の説法を各一日ず

つ、七社に当てる。

山王新記〈東大史料 6112/4〉

山之新記(外) 日吉山王廿一社新記(内)

奥書、元禄五年壬申霜月吉日 謹写畢 上野国世良田村 大澤宗棟
(メモ)内容

大宮、神躰、扶桑明月集云々

扶桑明月集、山王密記、三宝輔行記、山王記、日吉社参記、日吉

神道秘密記等の引用多し

「記家一途定如意輪」のごとく、記家の説として示すところ多し

原蔵 毛呂雪男氏(群馬 世良田村) 撮影昭和三六年

元禄五年霜月 大沢宗棟写

赤城縁起に合綴撮

山王神聖御鎮坐猿伝記〈内閣 143/119〉

山王猿伝記(外箋)

山王神聖御鎮坐猿伝記(内)

27・2×18・8 13丁

印記 書籍館長、浅草文庫、和学講談所、日本政府図書

本奥書、宝治元年吉辰日従五位下祝部宿祢成茂(7才)

伝聞山王神聖御鎮座猿伝記扶桑明月集山王靈應記山王託宣集山王竊

案略記山王日吉本紀等為山王七所権現神秘書殊以此書為第一有故以

樹下家古写本令書写之者也

于時天正三年九月七日染筆於比叡山下旅館

林主水良次花押

右二冊以林氏家秘藏本令書写之者也

文祿二年癸巳仲夏 桑名刑部花押

宝永二乙酉之歲初秋之六

三枝益人今出川荅*花押

正徳二年夏閏五月廿三日從南京神人今出川氏而獲焉往歲勉々尋於山

王事實粗閱數本雖七穴之傳未及矣實真秘々正傳也後學讀之須發

南京稱名寺主契空筆

(メモ)本文は七丁まで、以下追考その他で六丁あり。

山王神道秘要集〈叡山 無一坤29/19/839〉

山王神道秘要集(外 内題なし)

13・6×19・2

山門無動寺藏(墨) 沙門真超(朱)

本奥書、本云天正七年己卯八月十三日書畢

奥書、于時寛文元辛丑暢月上澣書写之畢

山王秘記〈叡山 無一乾28/7/791〉

日吉山王記 山王秘記(外) 日吉山王記 曆応年中撰之歟、山王秘記

此記奥參社次第記之(内、扉)

27・2×19・9 48丁(40丁以下山王秘記)

山門無動寺藏(墨) 沙門真超(朱)

本奥書、書本云以横河覚樹本書写之享康永元年十月日

于時応永卅一年甲辰十一月二日於叡山楞嚴院飯室谷竹林坊主假居南向六間住興隆之思且為神事等故実在知且為未代才覚雖為老眼惡筆 禪如形書写之早

右筆無障金剛法印景秀生年六十五歲(38丁ウ)

于時延宝九龍集辛酉歲林鐘中浣日以慈眼大師天海藏本於般若谷一音院學窓

為山王権現倍增威光仏法紹隆山麓安全子息災延命修學增進令染筆訖

延暦寺楞嚴院都率谷住侶 雞頭院堅者円朗成十二編夏生年廿二 後改嚴覚(39丁ウ)

于時正和元年十月廿日於東塔神藏寺許比丘光宗 遍照金剛義源

右參社記梨本一流記録也。凡梨本青蓮院雖有(中略)

文明十二年庚子九月廿二日

寛永九年壬申十月十一日書写之早

延宝九年*次辛酉夏六月六日以天海藏御本書之

吾立杣苾芻円朗藏(以上47丁オウ)

奥書、文化十一年申戌十二月中旬以雞頭院藏本令書写之

台嶽法曼院大僧都真起(以上48丁オ)

(メモ)三九丁までが日吉山王記、四〇丁からが山王秘記である

山王秘記・嚴神祭礼抄〈叡山 無一乾28/8/792〉

山王秘記・嚴神祭礼抄(外・内)

27・3×19・9 34丁

山門無動寺藏(墨) 沙門真超(朱)

奥書、文化十一年甲戌十二月以鵝頭院藏本令書写之 台嶺沙門大僧都

眞超

(メモ) 山王秘記 (2丁から10丁ウまで) と厳神祭礼抄 (11丁オから34

丁オまで) の合写。

山王秘伝記 (叡山 別一外1/11/163)

山王秘傳記 (外) 内題なし

24・1×16・9 11丁

(メモ) 奥書、印記なし

表紙右下に別当代藏とあり

山王影向秘奥密記 (叡山 無一乾28/21/805)

紅山王影響秘奥密記 (外箋)

紅山王影響秘奥密記 (扉)

山王七社

影響 大日本国天台山東塔恵光院澄豪記 (内)

20・0×13・8 54丁

山門無動寺藏 (墨) 沙門眞超 (朱) 雞足院莊嚴藏 (墨)

本奥書、大治三年^戊九月廿五日夜… 観応元年十一月廿八日… 永

正三年七月廿二日… 慶長十七年五月九日… 明暦年序素節吉辰…

奥書、文政十年^丁甲春日從京師書林得此本畢

山王利生記 (叡山 明/667/2135)

山王利生記 (外箋) 内題なし、三卷三冊本

26・6×16・0 11丁

上野養寿院藏 (墨)

山王利生記絵詞目録 (叡山 法一外1/1)

山王利生絵詞目録 眞超 (外)

日吉山王絵詞目次 (内)

24・2×17・3 5丁

沙門眞超 (朱)

(メモ) 内容、卷一—卷九までの目次題、以下のとおり

卷一 序、相応和尚事、智證大師事、宗磨僧正事

卷二 增命僧正事、慈恵大師事、希遠祿宜事、陰陽堂僧都慶増

事

卷三 暹賀聖救事、皇慶園梨事、後三条院御事、堀河院御事

卷四 大僧正忠尋事、成陽園梨事、戒心谷妙音坊事、智賢園梨

事

卷五 二条関白殿事

卷六 無動寺仙命事、侍従大納言成道事、光明山傍老尼事、有

僧日吉參詣時葬死人事、月藏坊桓舜事

卷七 真源法橋事、仙昌法橋事、式部太輔敦光事、嘉祥寺恵海

事、宗因李字事

卷八 瀧山神事、祠官兼能事、戒心谷阿闍梨明賢事、章忠園梨

事、嚴雲事、黒谷案心事、張光安事

卷九 近江守仲兼事、賢阿事

山門格式考〈叡山 無―丙35 / 11 / 1034〉

山門格式考(外・内)

著者、擬講法曼院義空

27・2×20・1 6丁

山門無動寺藏(墨) 沙門真超(朱)

奥書、右條二八寛保三^{癸亥}年十月薩州南泉院寺中吉祥院有盛登山ノ節

法曼院義空法印祈尋問御答也 急便ニマカセ乱筆而書写入御覽候

天明八年^{甲辛}七月 薩州憲英寺榮龍

山門什善坊真超法印覺師

山門記〈叡山 無―丁36 / 35 / 1079〉

山門記(外箋) 山門記^{三塔本尊}(内・箋)

23・3×16・6 28丁

沙門真超(朱)

奥書、享保元年^{丙甲}仲秋日書寫焉 本住沙門^{威詞}定玉

(メモ)目次・次の通り

日吉社御位

七社神輿初造年代

三塔諸堂間数^并本尊等

止観院 惣持院 東塔院 文珠楼院 五佛院 実相院

持明院 大縁三昧院 西塔院 釈迦堂

九院佛閣 西塔六所明神 同八所明神 山門佛法公家崇敬

首楞嚴院、根本如法堂、十二番神 如法経事

根本観音堂 恵心院

梨下相承重宝 同相承寺院^{山洛} 青蓮院相承本尊聖教

青蓮院相承寺院^{横川} 飯室谷

妙法院 同相承寺院

山門記〈東大史料 2015 / 416〉

山門記(外・内)

26・2×18・8 34丁

奥書、右山門記 京都市上京区新町通竹屋町下ル 辨財天町碓井小三

郎氏所藏

大正十五年十月写了

(メモ)本奥書なし

山門記^{碓井小三郎所藏}(2丁オモテ)

山門記^{青蓮院}(3丁オモテ)とあり

内容は日吉社御位 七社神輿事 七社降臨垂迹時代事 山門三塔

諸堂^并本尊等事 三門跡相承尊院事 当山九院仏閣事 永観元

年恵心院供養之事

原藏 碓井小三郎(京都 上京区弁財天町)

山門記記録聞書 叡山 水一内9 / 59 / 137

山門記記録聞書 三塔回峯掌中記 (外) 山門記比永年中編集 横川兜半谷 (扉)

26・6×18・8 48丁

奥書、以右件本前半於比叡山横川写始之 後半於善光寺別当大勸進*

*居遂写早 昭和二年十二月五日 寂暁

(メモ) 記録聞書

一、師云者上官太子在三城 未来大法弘通勝地見王

一、伝教大師御因位ノ事

一、百枝土仏造玉ヘル事

一、當山四聖山云事

(13丁オ) 應永廿八年辛丑十月十二日於西塔院

(13丁ウ) 南谷善現房書之記去十月朝師書静性上人被德也於彼砌任短毫令注

之仍僻字落字更不可勝計者也雖然短才之及分如走筆端早敢不可有

外見

者也 則此日巡礼而已 遍照金剛俊清

(二行略す)

(14丁オ) (一行略す)

永享七年乙卯四月廿一日賜御本謹々書写訖 俊寿

明師之御前ニシテ奉被見ノ早

文明六年八月五日令此本**早 助圓

(15丁ウ) (三行略)

貞享二乙丑祀春月書于 権少僧都法眼嚴覚

(17丁オ) 三塔回峯掌中記 當山結界事

(47丁ウ) 順禮掌中記終

(48丁オ) 右一冊者北嶺行者掌中秘記也幸得好本自書写之訖處々旧跡及真言

等遂鑿穿畢不可敢混世流布之本*可秘藏之勿法孫*出門*而已

貞享五年戊辰仲春念九日 山門雜足院法印大僧都覺深識

(48丁ウ) 右一冊横川華藏院ヨリ借用令書写者也

寛延元辰年 西塔北谷 正教坊第九世智英

山門記 叡山 水一内9 / 60 / 140

元禄十六年調山門記 (外箋)、山門記 (内)

26・6×19・0 65丁

本奥書 元禄十六年癸未六月 日 執行代 别当代

奥書 大正五年三月十一日於横川中堂所写了 華嚴院寂暁

(メモ) 横川を含む山門各寺院の元禄十六年当時の現状調査の記録、41丁

以下は近江州滋賀郡坂本神社仏閣記。

山門旧舎記 叡山 無一丙35 / 7 / 1030

山門旧跡記 (外箋) (内・扉ともなし)

27・2×19・6 32丁

山門無動寺藏 (墨) 沙門真超 (朱)

奥書、なし

(メモ) 寛政の頃の写しか

山門記録雑集〈叡山 無―丙35 / 15 / 1038〉

山門記録雑集(外・内)

27・4×20・1 51丁

山門無動寺蔵(墨) 沙門真超(朱)

奥書、文政十一年戊子初夏頃以雞頭院所蔵前大僧正嚴覺自筆写本令書

写之者焉 叡嶽東塔執行探題兼戒壇院知事前大僧正大行滿葛川大々

先達護法金剛寮実

山門事書〈東大史料 2015 / 226〉

山門事書(外箋) 山門事書文安五六 兜率溪 百一後花園 雞頭院本覚蔵(扉) 事書

書(内)

26・3×18・7 30丁

本奥書、元禄六年冬十二月以西北正教房蔵本倉卒書写之訖 兜率谷雞

頭院主 法印大僧都嚴覚

田中言義写、武田信賢校

奥書、右山門事書

近江国滋賀郡坂本村西教寺蔵本

明治十九年十一月編修 星野恒探訪明年十二月謄写了

(メモ)内容は、文安五年二月十九日釈迦堂閉籠衆議曰云々よりはじまる

山門雜記〈東大史料 2015 / 227〉

山門襍記 横川雞頭院 桃源軒嚴覚(内・外)

26・4×18・8 19丁

本奥書、右青蓮院尊朝親王御直筆云々本紙在相承院 右以西塔谷妙觀

院蔵本書写之訖 元禄七年甲戌冬十月十八日 雞頭院嚴覚 永正十

五年四月四日 根本中堂供養次第記 外記 貞記 雞頭院文庫

少外記康貞記 永正十五年四月四日 比叡山根本中堂供養被行之願

人南光房

奥書、右山門襍記 西教寺蔵本明治十九年十一月編修 星野恒

(メモ)内容は

永正十五年三月廿日於執行代坊一院衆議條々

永正十四年八月十三日於月輪房本堂修理奉行事一院衆議院條々等

々

原蔵西教寺

山門四分記録略記〈叡山 無―丁36 / 34 / 1078〉

山門四分記録略記(外) 山門四分記録略記 附 堀井流相承 (内)

24・3×16・8 30丁

山門無動寺蔵(墨) 沙門真超(朱)

本奥書、弘仁九年七月二七日前入唐授法沙門家隆 前入唐授法沙門義

真

弘仁九年四月八日 家隆

永和三年 法印大和尚位慈海記(30丁才)

奥書、右以青蓮院大王御本写之 正徳六丙 申三月 一日 *空主人

咸潤玉（咸後改_レ徳）

（メモ）叡山の内外の結界と三塔の寺院に関する記録

山門諸堂縁起（叡山 明―内9 / 69 / 713）

山門諸堂縁起（外）内題なし

28・1×19・9 52丁

山門蔵本（墨）

本奥書、應永廿四年五月十二日傳写早（一行空白、三行略）

文明十七年六月十四日 書写訖 秀藝写之

為末代興隆写之訖 依有本審一所闕字在之 後可被入之也

山門諸堂記（叡山 明―内9 / 70 / 711）

諸堂記録（外） 九院仏閣集（扉）

梶井流相承四分記録傳受故實（巻首）

32・2×20・5 38丁

奥書、右抄乃記録諸学大繩也 今奉*果鎮供奉之處也 永徳三年_{癸亥}

四月六日 重*記之

永享八年丙辰十二月廿二日賜寺戸御***遂至地託 法印慶舜

奥書、于時元和五年己未四月廿六日於成*成菩薩陀*法印

（メモ）奥書の後、

必生_定往生毎日十遍念仏 覚大師御相承とある

山門大講堂雜記（叡山 無―丙35 / 5 / 1028）

慶長六年 山門大講堂衆議 条々（外・内）

27・3×20・2 18丁

山門無動寺蔵（墨） 沙門真超（朱）

奥書、文化五年戊辰三月以当院蔵本令書写之了 慶長六年連署本紙明

王堂蔵中在之 台嶽法曼院大僧都真超

山門探題事（叡山 止―内9 / 7 / 3）

天文十七年探題事記（外） 山門探題事（巻首）

26・6×17・9 5丁

奥書、享保十四年歲次己酉居諸勝寫藏于 大會文匣者 會行*南谿

吉祥大僧都義麟誌

山門中興伽藍坊舎記（東塔）（叡山 無―丙35 / 8 / 1031）

_{東塔}山門中興伽藍坊舎記（外箋） 山門中興伽藍坊舎記_上（扉）

26・8×19・1 109丁

山門無動寺蔵（墨） 沙門真超（朱）

本奥書、正徳三年己正月東叡山_江差出候留 山門再興東塔各坊世譜

一冊 宝乘院澄然

寛政二己巳年五月本院記家 華王院義順写之

奥書、寛政十年戊午仲春以本院記家之蔵本令書写之者也 什善坊大僧

都真超記

山門中興伽藍坊舎記（西塔・横川）〈叡山 無一丙35／8／1031〉

西山門中興伽藍坊舎記（外箋） 西塔山門中興伽藍坊舎記^中（扉）

26・9×19・2 108丁

山門無動寺藏（墨） 沙門真超（朱）

本奥書、此本紙正徳中東叡山上^リ候也（中略）西塔堂舎^并各坊世譜

一冊

文庫第六

宝乘院澄然

寛延二年己巳五月本院記家華王院義順写之

奥書、寛政十年戊午仲春以本院記家之藏本令書写之者也 大僧都真超

誌

山門堂舎記〈叡山 無一丙35／6／1029〉

山門堂舎記（外） 内題なし

27・2×19・8 70丁

山門無動寺藏（墨） 沙門真超（朱）

奥書、元禄十六年^{癸未}歲六月日 執行代[㊦]

執行代[㊦]

別当代[㊦]

（メモ）袋ノ上書に

元禄十六年月日近江国比叡山延暦寺堂塔記同坂本神社仏閣記三

執行代（以下略）

山門中興伽藍坊舎記（西塔・横川）〈叡山 無一丙35／8／1031〉

横山門中興伽藍坊舎記（外箋） 西塔山門中興伽藍坊舎記^下（扉）

27・0×19・1 42丁

山門無動寺藏（墨） 沙門真超（朱）

本奥書、此本紙正徳中東叡山^{江上}リ候也（中略）横川堂舎^并各坊世譜

一冊

文庫第六

宝乘院澄然

寛延二年己巳五月本院記家華王院義順写之

奥書、寛政十年戊午仲春以本院記家之藏本令書写之者也 大僧都真超

誌

山門日吉活套記〈東大史料 2015／517〉

山門日吉活套記（外箋） 山門日吉活套記 慈覚智證兩大師門徒確執

日吉神輿動座之事 山門破滅之事（内）

26・8×19・0 29丁

奥書、右山門日吉活套記 近江国滋賀郡坂本村西教寺藏本

明治十九年十一月編修 星野恒探訪 明年十二月謄写了

（メモ）本文一丁オモテに「天台山兜率溪雜頭院の朱印の写しあり、扉に

史籍集覧本山門三井確執起之ト同本ナリ（花押）とあり

30丁オモテに保科足穂写 武田信賢校 とあり

西教寺藏本

山門要記〈叡山 無―丙35／2／1025〉

山門要記第二、第三(外)

山門要記第二 己諸嚴覺(内)

27・4×20・1 第二―76丁 第三―27丁

山門無動寺藏(墨) 沙門真超(朱)

奥書 文政十一年戊子仲夏頃以雞頭院藏令書写之 叡嶽東塔執行探題

兼戒壇院知事前僧正豪実(第二)

文政十一年戊子仲夏頃以雞頭院藏本令書写之 叡嶽東塔執行探題兼

大乘戒壇院知事大行滿葛川大々先達前大僧正豪実

神書〈叡山 葉―外―／4／242〉

神書(外・内)

15・2×22・4 48丁

山門藥樹院藏(朱)

(メモ) 刊記なし、仮綴本、江戸初期の写しか。内容は神道第二重即灌頂

分、神道神墾之事、神道根本十二道大事、鳥居ノ本居、神道破壇

作法など、後半に神道灌頂あり

続日吉新記〈叡山―乾28／36／820〉

続日吉新記(外・扉・内)

24・1×17・1 40丁

山門無動寺藏(墨) 沙門真超(朱)

奥書、文化三年夏以雞頭院藏覺深大僧正自筆之本令書写之 此記則彼

僧正編集也 台嶽法曼院真超

(メモ) ○本札拜講事 ○新札拜講事 ○日吉社興廢之事

各札拜講の縁起並びに式次第を記す、日吉社興廢の事は、簡略

な記事のみ

瀧尾権現靈託記〈叡山 葉―外―／7／223〉

瀧尾権現靈託記(外) 内題なし

23・6×17・2 22丁

山門藥樹院藏(朱)

本奥書・寛永三年六月日 水戸儼塾森尚謙書

奥書、此記天保十一庚子年以恵心院前大僧正本書写 写誤多 点朱

校合畢^シ 権僧正孝海

瀧尾権現靈託記〈叡山 水―外―／9／169〉

瀧尾権現靈託記(内) 外題なし

26・7×19・1 20丁

本奥書、宝永三年六月日 水戸儼塾森尚謙書

享保十九年甲寅歲定光院明賢附之記室

宝永五年冬十二月中院命桜法橋^{年八十} 曆写 兜率谷雞頭院已講大僧都

敬覚

奥書、大正二年七月十五日於四季講堂写 原本記家藏之 華藏院寂暁

(メモ)扉に首楞嚴院記家とあり

檀那院・安居院〈叡山 無―乙34／38／1017〉

四王院・持明院・檀那院・安居院・歴代略記(外・内)

13・5×20・1 8丁

山門無動寺藏(墨) 沙門眞超(朱)

奥書、文化十年癸酉秋八月魚山如来藏本借用之令書写者也 台嶽法曼

院大僧都眞超 同十二年三月十五日松里坊校合了(朱)

天正再興記〈叡山 水―内9／61／147〉

天正再興記(外箋) 天正本山再興記(内)

26・6×19・1 60丁

奥書、十一月 日 執行法印探題僧正本願大和尚位 豪盛

(メモ)ごく最近の書写、痛みなし

豊葦原中國日吉社神道密記〈内閣 42／721〉

豊葦原中國日吉社神道密記(外箋・内)

27・1×19・5 20丁

印記 日本政府図書(朱)

奥書 右借用月讀社祝松室薩摩守本云々 天保九年

南宮縁起〈叡山 別―外―25／237〉

南宮縁起(外) 先代旧事本紀卷三陰陽本紀上(内)

29・1×20・5 8丁

奥書、享保十九年甲寅歳定光朗賢附之記室(別筆)

(メモ)表紙左下に「首楞嚴院記家」とある

7丁ウラに「昔明暦二丙年五月三日第一祠官代官大夫行治筆」

(本文同筆)とあり。8丁ウラ「同七甲戊十月修復造乎」とあり

(元禄七年(一六九四)か 筆は覚深のものか)

比叡山(戒壇)再興焉〈東大史料 2015／258〉

比叡山再興縁起(外・内)

26・7×19・1 10丁

奥書、右比叡山再興縁起 近江国滋賀郡比叡山善住院藏本

明治三十七年十一月謄寫

(メモ)内容は

比叡山縁起 天正十二年五月日 探題法印豪盛 敬白

延暦寺戒壇再興縁起 (刊記なし)

山門無動寺堂社再興縁起 (刊記なし)

比叡山浄土院縁起 天正十二年八月 の四種

原藏 善住院(滋賀県坂本村) 一冊

比叡山縁起(豪盛) 天正十二年五月

比叡山縁起〈叡山 明―内9／66／712〉

比叡山縁起(外・内)

27・1×19・3 9丁 記録抜書14丁を合冊

山門明德院藏本(朱)

(メモ)奥書なし、江戸中期の写しか

比叡山再興縁起(止8/8)とは別のもの

比叡山雜記(叡山 止内9/9/11)

比叡山雜記(外)内題なし

27・7×19・7 23丁、仮綴本

本奥書、正和四年乙卯仲夏上旬當流記録中秘口決一卷奉授秀範大徳既

訖斯雖*先聖之敝命依感信求法之懇志竊面授如件 天台山慈覚門流

三部都法大阿闍梨位義在判

右一卷者去九月十日於南光院為輪王寺門主御聽聞論義御興行之砌予

亦聽聞之序東谷五智院令一宿借用之得今日余暇書写訖 写本之中不

審多端也 後賢添削之

寛文丙午歲初冬二日初更

於惠心院傍室窓前灯下拋禿翰畢 台嶺桑門 覚照藏

奥書、延享三丙寅年 本院記家義順写之

比叡山雜記(叡山 無内丙35/10/1033)

比叡山條制(外箋)條制(内)

27・6×20・3 4丁

山門無動寺藏(墨) 沙門真超(朱)

奥書、寛政十年戊午十月以明王宝库之本令書写之者也 北嶺南山大僧

都真超誌

日吉大宮遷宮次第(叡山 無内乾28/18/802)

日吉大宮遷宮次第日吉御神衣御神室(外) 貞享四年丁卯冬十二月十

六日日吉大宮權現正遷宮次第(内)

14・0×20・9 18丁

山門無動寺藏(墨) 沙門真超(朱)

奥書、文化十二年乙亥正月下旬以雞頭院藏本令書写之 台嶺大僧都真

超

(メモ)一、日吉大宮權現正遷宮次第 貞享四年丁卯窮冬十六日法院大僧

都覚深記之 元禄十年丁丑秋九月初八日於左麓書之 兜率谷

雞頭院大僧都敝覚 洪道

二、日吉山王御神衣神宝帳(七丁)

兜率谷雞頭院大僧都敝覚 洪道(十七丁)、一、二の合本

日吉灌頂卷(叡山 無内坤29/15/835)

日吉灌頂卷(外) 日吉灌頂卷 唯獨自明了余人所不見(内)

27・5×20・1 8丁

沙門真超(朱)

奥書、文政元年戊寅六月上旬以生源寺越前守所持之古本令書写之

台嶽法曼院大僧都真超

(メモ)「金剛秘密山王血脈」として、「天台座主大僧正忠尋」以下の相伝を、「金剛秘密山一心三視血脈」・「山王三種口訣」を解説

25・8×18・1 19丁

(メモ)刊記なし、江戸末の写しか

第四 目録 自天文十五年
到同十七年 号 日吉元服記

日吉御元服ノ事 付三好方撰湯衆追伐ノ事

公方御入城ノ事 晴伝定頼敵ニ成ノ事

付晴元御免許事

舍利寺合戦ノ事 細川玄蕃頭打死ノ事

武衛ノ家伝ノ事 畠山家伝ノ事

細川ノ家ノ事 三好ノ家伝ノ事

日吉行道記 叡山 無一坤29/2/822

日吉行道記 (外箋) 日吉行道記 元本表紙外題云
山門行道記云々 (内)

卷子装 タテ10・5

山門無動寺(墨) 沙門真超(朱)

本奥書、永享三年正月廿三日於東塔西谷浄定房為令法久住法流繁興令

書写之訖可秘々々 遍照金剛隆清 三十一歳
四十五才

永享五年二月廿一日写功訖以隆清公為先達今月十五日令參社早 永

純

時于寛正四年癸未九月一日西塔院南尾香乘房三部都法大阿闍梨位法

印度春 示 同行四人 成菩提院 春海 慶成 聖祐 永村

明応七年 戊午五月十八日 癸巳遂書功訖 此本者西塔院南尾勝光房聖村所

持也令懇望写之訖 正四位下行内藏頭祝部種長宿祢六十五歳也

奥書、文政十年丁亥秋八月下旬以真葛原賛仏堂藏右明応七年書写古本

令書写之 東塔院執行探題前大僧正豪実

日吉御元服記 東大史料 4157/90

日吉御元服記 (外) 天文15 | 17日吉御元服ノ事 附三好方撰州衆追

伐ノ事他 (内)

日吉參社 叡山 別1/6/160

日吉參社次第(外) 山王社參次第(扉)

日吉三王參社次第(内)

27・5×19・6 13丁

(メモ)奥書、印記等なし。書写は江戸中期か、

「記家 一音院素含」とあり。

日吉參社記 叡山 別 | 外1/22/158

將軍義満公日吉參社記 (外)

日吉社室町殿御社參記 (内)

27・3×18・7 39丁

本奥書、右一冊不慮求得之一日一夜書写之早

元禄二年^{己巳}三月廿一日及夜陰一校之不審山門横川雜足院^住法印大僧

都覺深<sup>(以上本
文と同証)</sup>

奥書、享保十九年甲寅歲定光院朗賢附之記室(別筆)

日吉參社法樂印信〈叡山 無―坤29／33／853〉

日吉山王 參社法樂印信 三通 坤四十 承秀(包紙)

【參社法樂印名】 27・8×40・0 (各紙端裏書)

【山王法樂秘密念誦】 27・8×39・0 (各紙端裏書)

【參社法樂印信】 27・8×39・0 (各紙端裏書)

山門無動寺藏(墨) 沙門真超(朱)

奥書、文政五年壬午八月三日以如来藏古書此印信三通奉書写之者也

于時梶井宮御師□ 勒之於彼殿中自書写之 台嶽執行探題僧正真超

【參社法樂印名】の部奥書

文政五年壬午八月三日以如来藏古書奉写之探題僧正真超

【參社法樂印信】の部奥書

文政五年壬午八月三日以魚山如来藏古書奉書写之探題僧正真超

【山王法樂秘密念誦】の部奥書

文政五年壬午八月三日以如来藏古書奉書写之 探題僧正真超

(メモ) 記事中「永禄八年乙丑正月十日／内供奉存全」とあり

印信、次第と指図したものか

日吉山王記 〈叡山 止―外1／1／13〉

日吉山王記^{十一卷合作一}(外)

日吉山王記^{十一卷合作一} 伊香立惣鎮守八所大明神事四通附(扉)

29・2×20・8 41丁

仲全(朱)

本奥書、元禄十六年癸未上己日書写之往々中損有之 台嶽中天雞頭院

法印嚴覺

奥書、右写本者横川雞頭院嚴覺擬講法印*令借用書写也 虫損大分有

之如本写重之 于時宝永三年^{丙戌}十月十二日於八条宿所之書 法眼

幸叡七代末室山門再興長喜別当五代 西塔北谷公人西方辻子妙法衆

坂本年寄 相摸仲全(朱筆)

(メモ) 41丁ウラ 次の書きこみあり (朱筆)

一、相摸仲全之前ニ行丸書記之通神爵之事尤之訳也 惣鉢坂本モ

上坂本者不浄汚*撰神ヲ奉崇故世流ハヤリ病上坂本ニ不来 又*坂

本ハ不浄*ヲ透々カマハ又故ニハヤリ病入来テ大分死ス 往*々如此

之由古老中伝** 下坂本ニハハヤリ病来毎日大分人死ス 上坂

本ニハハヤリ病ニテ死スルハ無之眼前知所也

扉ウラに次の書込あり

天正廿年六月十日行丸逝 <sup>祝部行成云行丸石塔
今在東迎寺</sup>

日吉山王記 〈叡山 無―乾28／7／791〉

日吉山王記 山王秘記(外箋) 日吉山王記 ^{曆応年中撰之歟} 山王秘記

此記奥卷參社次第記之(内・扉)

27・1×19・8 48丁(40丁以降) 山王秘記

山門無動寺藏(墨) 沙門真超(朱)

本奥書、書本云以横河宝樹房本書写之早 康永九年十月 日 于時應

永卅一年^{甲辰}十一月二日於叡山楞嚴院飯室谷竹林房假居南向六間住

興隆之思且為神事等故实在知且為未代才覚雖為老眼惡筆憚如形書写

之早 右筆無障金剛法印景秀生年六十五歳

于時延宝九^{癸酉}歳林鐘中浣日以慈眼大師天海藏本於般若谷一音院学

窓為山王権現倍增威光佛法紹隆山麓安全^下 息災延命修学増進令染

筆訖 延曆寺楞嚴院都卒谷住侶 雞頭院堅者圓朗^{生年廿一} (後改

嚴覚)

(40丁以下山王秘記)

于時正和元年十月廿日於東塔神藏寺許 比丘光宗 遍照金剛義源

右參社記梨本一流記録也 *梨本青蓮院雖有(中略) 文明十二年

庚九月二日 寛永九年^{甲壬}十月十一日書写之早 延宝九年*次辛酉夏

六月六日以天海藏御本書之 吾立杣苾芻 円朗藏 城州高野村受普

薩戒求*男忍昭之

奥書、文化十一年甲早十二月中旬以雞頭院藏本令書写之 台嶽法曼院

大僧都真超

(メモ)日吉山王記 内容抄

- 第一 御本地垂迹位寶殿間敷事
- 二 小社小宮事 第三 御垂迹事
- 四 三聖御事 五 御鉢事

六 御眼事 七 三聖御出家事

廿六 当社触穢日敷事

御乘輿遷宮例 保延 永曆 安貞 寛喜

日吉山王記(叡山 無) 乾28/9/793

日吉山王記(外箋・内)

27・2×19・8 22丁

山門無動寺藏(墨) 沙門真超(朱)

奥書、文政元年戊寅六月上旬以雞頭院藏本例書写之者也 台嶽法曼院

大僧都真超

(40丁以下山王秘記)

日吉山王記(東大史料 2012/115)

日吉山王記(外・内)

27・2×19・1 14丁

奥書、右日吉山王記 一卷

近江國滋賀郡坂本村生源寺希徳^{日吉社}藏本明治十九年十一月編修星野

恒探訪 明年十二月謄寫了

(メモ)生源寺希徳藏本写

内容は北斗七星のことなど

日吉山王権現記(叡山 吉/内9/8/132)

日吉山王権現記(内) 外題なし

24・7×17・2 28丁、仮綴本

本奥書、皆元禄八載龍集己孟夏之吉台山蘇陀峯雜足院住法師大僧都

擬講覺深識

(メモ)元禄八年覺深書写本を後のものが書写したもの

日吉山王権現九段式〈叡山 水―外1／6／213〉

日吉山王権現九段式(外) 山王権現九段式(内)

22・0×16・1 10丁

一乗止觀院(墨)

(メモ)奥書なし、江戸中期以降の書写か

日吉山王雜記〈叡山 別―外―／23／157〉

日吉山王雜記 行丸記(外) 日吉山王雜記 行丸記
十一通合為一冊 (内)

27・8×22・0 26丁

奥書、元禄十六年癸未上元日書之虫喰有之

兜率谷雜頭院法印大僧都嚴覺洪道

(メモ)主な内容は以下のとおり

日吉社司等解 申請 天裁事

八所大明神立願条々 行丸

日吉社社内百八社
社外百八社御神躰刻彫事

上七社假殿起立所

日吉社御神躰彫刻

十禪師権現御託宣病則消滅事

立願成就先例条々

立願条々

日吉社大宮権現神宝神服宝檢帳 行広書之

日吉社二宮権現神宝之次第 等々

日吉山王三聖垂迹記〈叡山 無―乾28／4／788〉

日吉山王三聖垂迹記 都良香記 (外)

日吉山王三聖垂迹記(内)

28・5×26・0 9丁

山門無動寺藏(墨) 沙門真超(朱)

本奥書、于時應永卅一年甲辰八月十一日於東塔南谷桐林房良遍法印

御本賜書写功訖 宗雅

文政六年末春二月上旬以走井清淨院宗溆持来播州大山寺藏古書令書

写之布代珍書也 叡嶽執行探題僧正豪実

奥書、貞觀七年乙酉三月廿日 都良香謹記

己上扶桑古語靈異集都良香記

(メモ)扶桑古語靈異集云 都良香記 古シハ大極、一氣未カタチアノミ有象 天地未

開關ヒキケ只以渾沌コンソウト而(二)丁オモテ)

日吉山王十禪師本地供法則〈叡山 無―午48／27／1504〉

日吉十禪師本地供法則(外) 天明八戊申年正月五日 十禪師本地供

法則(内)

12・0×16・6 6丁

沙門真超(朱)

(メモ)奥書なし、

敬白に始まる、天明八年の法会の文言原稿か。

日吉山王大権現縁起(叡山 池―外―/5/1976)

日吉山王大権現縁起(外箋)内題なし

27・1×19・6 23丁

津金僧房蔵(朱)津金僧房主人図書(朱)

奥書、旨元禄八載龍集乙亥五夏之吉 台山菴陀峯雞足院住 法印大僧

都擬講覚深識

此縁起者以宝幢院記家蔵本模写之者也 蓮国道人

観流*道

日吉山王知新記(叡山 別―外―/8/153)

山王知新記(外) 日吉山王知新記卷上(巻首) 日吉山王権現知新卷

中(巻首) 巻下も同じ

26・2×20・2 上79丁 中74丁 下47丁

本奥書、奉修復日吉山王廿一社 金剛筆

弘治三年丁巳九月二日 探題法印権大僧都豪仁記之

日吉山王 餘社神影以金岡筆奉謹写之

寶永元年^{甲申}首夏佛誕生 洛東鴨神宮寺本寿院 法印権大僧都梵

豪誌 日吉山王廿餘社神影梵豪筆奉謹写之

奥書、享保七年壬寅孟夏吉祥日 山門無動寺法曼陀羅院所化法輪房義

書

(メモ)56丁ウラより彩色の大宮権現、二宮権現、客人、十禪師、聖真子、

八王子、三宮、大行事(猿体)、早尾、午御子等の画像が八丁続

く。八丁目の裏には奥書、続いて日吉七社御神影二丁、日吉山王

権現廿一社御神影が五丁続く。さらに五丁あつて上巻が終わる。

奥書56丁ウラより

本記曰

沙門顕真記之 曆寺沙門仁全記 天台沙門義源判 等とあり。

74丁オモテに

右要文者敝神精魂靈應之軌範也 是以為一流相承之秘事未レ及散

在流布伝説ニ 縦雖ニ義源門弟ニ不得レ口決ニ押披レ之不レ受ニ正説ニ

妄覽ニ之輩者山王七社王子眷属忽加ニ證討ニ矣 加之義源果成ニ仏

道者以ニ仏智ニ照見之ニ 若墮ニ惡趣ニ者以ニ惡心ニ治罰之ニ 仍誓

記之状如件 文保二年歲次戊午八月一日記之

惣持院十四禪三師部灌頂阿闍梨位真如金剛義源判

巻下巻末に本文別筆で以下の記事あり。

旧本云

右此知新記三卷、雞足院覚深深後修テ正覚院ニ所編集歟今以ニ真覚院飯谷

*俊豪之本、當寺ニ三子寫レ之以納ニ明王蔵ニ 就レ中此一冊有ニ宗

色畫像件輩不_レ及者殆_ニ在_ニ乎此_ニ 然_ルニテ 法曼學窓_ニ於法輪義舞_ト人
隨喜_ノ書寫_レ巧後_ニ 素功_ヲ 矣 予感_ニ 其多能終不_レ省 惡筆_ヲ 助写_ハ半紙
可_ク 故記_ニ年月_ヲ云

享保第七次_ニ壬寅_ニ之歲夏五月庚寅_日建立大師末流 善任教院第八
世卯敬已

日吉山王秘伝記 叡山 無一乾28/11/795

日吉山王秘伝記 (外・内)

27・4×19・9 16丁

山門無動寺藏(墨) 沙門真超(朱)

本奥書、天應元年_{乙未}七月廿二日阿闍梨伝灯大法師位義源記 此本自

或所令借用之 康永 年卯月廿日令書写畢 雖為聊不可遠本則正

校畢_并印判形同捍之者也 應永三十三年_{丙午}九月六日_{甲申}令書写畢此記

者樹下成国卿家右之權禰宜侍從祝部行清特之 根本山王影向次第

(略)

右此記者杜家從祝部行清相伝之以御本書写雖非對酌 憚十禪師之於

經藏下八王寺上*奉行之時又一切經*佛之在之 仍寛正五年_{甲申}九月

廿六日申時相伝之宿縁*高之義誠以難有之間任无_ニ興隆如形令書写

者也 但写本以外朽損之間不審之文字多之 後覽之方様者以他本令

交可被直者也 文正元年_{丙戌}三日_{甲申}令書写者也 写本寛永十一天九月

十一日 十妙院 兼雲上_(空カ) 墨付十五帳

右以慈眼大使天海藏御本為真俗 興隆於般若谷学窓書写畢 写本

鳥馬馬之謬多繁然先任写本染筆後賢以吉本校合可然者

奥書、延宝八年歲次庚申冬小春初五日 比叡山延曆寺楞嚴院都率谷

堅者円朗<sub>往年廿二
咸臨十一年</sub>

日吉山王放生会法則 叡山 無一午48/26/1503

天明元年辛丑九月九日 山王大宮放生会法則 (外・内)

14・1×20・1 10丁

沙門真超(朱)

(メモ)奥書なし、

はじめに、「抑放生勤修之場法楽作善之処為_F享_F受_F法喜_F証明勝

会_F」とはじまる「神分」、次いで「啓白」以下、「伏願」まで、

法会の文言原稿と思われるものがあり、次いで「放生式」として

式進行次第が書かれる、「追記」として、以下の記載あり。

天明元年辛丑当会始行之時者東塔一院内之出仕也

法会之次第此記之通也

文化五年辰九月當会为三院屈請ノ一 (以下略)

日吉山王本礼拝講一座啓白 叡山 無一午48/25/1503

日吉山王

本礼拝講一座啓白 新礼拝講一座啓白

本礼拝講聖真子啓白 同 二宮啓白

同 十禪師引辞 (外)

本札拝講一之座法則 附真札拝講祈句八通 (内)

14・2×20・3 40丁

本奥書、本札拝講一之座法則 周海僧正製

右無動寺宝珠院藏本法曼陀已講法印義空取次ニテ借用之写置者也

延享四丁卯年六月念五日 相住坊大僧都智観

以智観本写置者也

天明六丙午年七月二十有四日 前大僧正豪靖

奥書、新札拝講一之座略白大概
如本講

原本云 右西楽院豪仁法印御作也

天明六丙午歳七月廿九日書写乎

虫くい

大僧正

虫くい

靖藏

日吉山王利生記 (内閣 143/117)

日吉山王利生記 (外箋・内) 山王利生記 (跋)

印記 書籍館長 (朱) 浅草文庫 (朱) 和学講談処 (朱)

日本政府図書 (朱)

奥書、享和第三癸亥の夏

台嶺長等沙門真超記

(メモ)白描の絵あり

日吉山王利生記 (東大総合 C/20/530)

日吉山王利生記 (外箋)

山王利生記 (跋)

26・4×17・2

東京帝国大学図書印 (朱) 南葵文庫 (朱)

本奥書、享和第三癸亥の夏 台嶺長等沙門真超記

(メモ)奥書はない。内閣文庫本の写しであるが白描の絵は省略されている。

日吉山王略縁起 (叡山 無一乾28/10/794)

日吉山王略縁起 (外・内)

27・2×19・6 24丁

山門無動寺藏 (墨) 沙門真超 (朱)

本奥書、旨元禄八載龍集乙亥孟夏之吉 台嶺蘇陀峯雞足院住 法印大

僧都擬講覚深識

奥書、寛政十一年己未二月以宝幢院記家之藏本令書写之了 台嶺南山

桑門釈真超記

(メモ)一、大宮権現 二、二宮権現 三、聖真子権現 四、八王子権現

五、客人権現 六、十禅師権現 七、三宮権現 八、早尾大権現

九、大行事権現 十、中七社 十一、下七社 十二、当社卯月中

の中の日の祭礼

日吉山王靈験記 (叡山 無一坤29/11/831)

日吉山王靈験記 (外・内)

20丁

山門無動寺藏(墨) 沙門真超(朱)

本奥書、于時延宝第八月朔日

元禄七年甲戌各月以西東谷妙観院藏本*尔書之

兜率谷 雞頭院 嚴覚

本奥云、右絵入本在*木相摸家

奥書、文政元年戊寅六月上旬以嚴覚大僧正之本令書写之 台嶽法曼院

真超

日吉七社神領記(叡山 無一坤29/21/84)

日吉七社神領 吉尊 (外箋、内題なし)

一軸(およそ200cm) タテ37・0

山門無動寺藏(墨)

奥書、元應元年十月 日

小比叡社

神主從四位下祝部宿弥學*

祝 從四位下祝部宿弥昌宗

称宜從四位下祝部宿弥道貞

大社

成久

*長

俊

日吉七社遷宮略記(叡山 無一乾28/17/80)

日吉七社遷宮略記 貞享四年 (外)

貞享四年丁卯十二月日吉七社遷宮略記(内)

27・5×20・2 25丁

山門無動寺藏(墨) 沙門真超(朱)

本奥書、右御神躰滋賀院入御之記至于爰者聖真子宮仕松順記置之分後

日注進之故合記之早 山門雞足院住 法印覚深識

宝永四年秋八月傳持雞頭院大僧都嚴覚

奥書、文化十一年甲戌十二月十二日以雞頭藏本令書写之 台嶽南峯大

僧都真超

(メモ)一、貞享四年十二月盜まれた御神躰にかわって新たに御神躰をつ

くり、まず滋賀院に安置してから遷宮した次第を記した書

日吉社記(叡山 無一坤29/24/84)

日吉社記 行丸記抜書 (外・内)

本奥書、文化十三年丙子十月朔日以比叡社笠川氏所持本行丸記抜書之

擬講大僧都真超

奥書、文化十四年四月廿日 考之記 擬講大僧都真超

(メモ)七丁より日吉山王祭礼濫觴考を合冊、一一六丁が日吉社記

日吉社極秘密記(東大資料 2012/31)

日吉社極秘密記并御形代社宮面在之(巻首)

27・5×19・7 43丁

奥書、右日吉社極秘密記 一卷

近江国滋賀郡坂本村生源寺希徳日吉社藏本 明治十九年十一月編修星

野恒探訪 明年十二月謄寫了

(メモ) 生源寺希徳藏本の写し

内容は北斗七星、日吉山王神体之図、社図など

日吉社御八講記〈叡山 無―巳30/19/1124〉

日吉社御八講記

遣大明国書翰

八幡宮御八講記

等持寺御八講記

毘陀院殿御月忌
許廣院殿御年忌

(外・内)

平等院一切経会

元和宸筆御八講

27・4×20・0 17丁

沙門眞超(朱)

奥書、文政二年己卯十二月中旬日以南谷浄教坊藏本令書写之者也 台

嶽法曼院権僧都眞超

(メモ) 「権大外記中原康富日記」から応永八年五月十三日北山殿の日吉

社参籠、大宮社御八講の旨の記事を引く。以下に、応永廿九年五

月二日等持寺、元和九年八月宸筆の二つの御八講については日を

追って参加を列挙。平等院一切経会は、「著聞集」から宇治殿の

平等院建立話を引くのみ。

日吉社参記〈叡山 無―坤29/3/823〉

日吉社参記 成尚 日吉雜記(外・内)

日吉参社記録成尚日記(卷首)

25・3×17・0 8丁

山門無動寺藏(墨) 沙門眞超(朱)

本奥書、右社記之旨大概如斯 于時文明六年^甲六月十六日隆祐

正徳三年^癸己四月廿二日命天忠書之探題法印殿覚

奥書、文化十二年^乙亥正月下旬以雞頭院藏本令書写之 台嶺大僧都眞

超

(メモ)・日吉参社記録也

・比彼岸所

・山門雜記

・田樂事 ・田樂名字事

・刀玉事 ・进廻事

・ヒンササラノ事 ・アヤ井笠事

・調拍子事 ・不用舞台事

日吉社神道秘密記〈叡山 別―外―/12/164〉

神道秘密記(外) 日吉社神道秘密記(内)

23・9×17・0 天25丁 地34丁

本奥書、元龜二年辛未九月十二日放火上古記録大乱之刻紛失畢 比分

新調也 追以鳥子紙可加清事者也^{云云}

天正十^五年十二月万吉 社務上祖宇志丸三十七世裔孫—社務行丸—
七十一歳千中生
三十五歳申生
相伝行広

本云 紙数三千二百三十二枚 日本国中小神祇三千百三十二神表
也 卷七十册可調也

于時天和三^癸曆九月吉祥日書写之

右奥書二

日吉神道秘密記雖為藥樹院秘書^某密書写之也*不許他見者也 右吉

田神宮寺ヨリ借出之写^早 元文五庚申卯月吉日大秀鳳来寺実泉院庫

藏本

宝曆十五^{乙酉}天六月吉辰於鳳来寺松高院大僧都善慧書写之

奥書、明和五戊子年十月吉日三^三劬鳳来寺於松高院法印内 井上本教拝

書写之本

(メモ)印記なし

表紙左下に別当院藏とあり、横川別当代藏外/4/155の書写本

日吉社神道密記〈叡山 別—外—/7/159〉

日吉社神道密記(外・扉)

豊葦原中国日吉社神道密記(内)

弥宜正四位下大藏卿行丸敬而撰述

27・4×19・5 20丁

奥書、享保十九甲寅歲定光院朗賢附之記室

(メモ)印記なし

表紙左下に「自楞嚴院記家」とあり
扉二丁表に僧正豪盛慧藏(墨でぬりつぶし)あり

日吉社殿願文〈叡山 無—坤29/36/856〉

日吉社殿願文松禪院藏写(外)(内題なし)

28・2×42・4 一枚もの

山門無動寺藏(墨) 沙門真超(朱)

奥書、文化七年庚午七月廿九日以松禪院書令写之 法曼院真超

皆安永八年孟冬十四日 延曆寺大衆等敬白

日吉社並叡山行幸記〈叡山 無—乾28/19/803〉

日吉并叡山行幸記^{元徳二年三月}(外・内)

27・2×19・7 63丁

山門無動寺藏(墨) 沙門真超(朱)

奥書、享和二年仲秋日以楞嚴院記家藏朗賢書写之本令書写之了 然此

書卷末以其語未終者更以 梶井宮御藏中古本檢之 御本亦同之 後賢

若得全本補之 延曆寺南山沙門真超記

(メモ) 上 卷

廿六日日吉行事 陪從神楽 廿七日山門行幸 講堂供養 廿八日

諸堂行幸 兒論義

下 卷

寛元二年卯月日吉 祭始被辨上卿

馬長者公澄勤之代 出兒

元享四年卯月日吉祭始被向内侍車已後無怠

惣持院興廢事

一、元徳二年（一二三〇）三月後醍醐天皇の日吉社並叡山の行幸

を記したるもの

二、もともと絵があつたが、今は「絵」と記して空白を設けてい
る。

日吉社二十一社記（叡山 無一坤29/12/832）

日吉二十一社記 同内外百八社、祝部氏系図 同祭祝言 山王御利生

客人宮神輿裝束勸進（外）

28丁

山門無動寺藏（墨） 沙門真超（朱）

本奥書、正徳五年乙未正月二十六日借松禅院藏本行丸自筆本騰写 嚴

覚

日吉山王第五宮客人権現神輿裝束新調勸發化疏

奥書、文化十一年甲戌十二月以雞頭院藏本令書写之 台嶽南嶺大僧都

真超

（メモ）祝部氏系図（2オ―5ウ）

日吉社社外百八社御神林刻彫事（6オ―10ウ）

日吉祭祝言（凡十三条）（13丁）

山王御利生 客人宮神輿裝束勸進（13丁）

御こしむかへ祝言（14オ―20丁まで）

山王御利生与神爵調伏之事（21オ―26丁）

以上の資料の合写

日吉社念仏堂縁起并勸進帳（叡山 別―外―/10/166）

日吉社念仏堂縁起并勸進帳（内）外題なし

27・5×33・8×5（卷子本一軸）

刊記 寛永十八年九月

（メモ）

「夫我朝に三社の念仏と云事有 伊勢八幡山王三所の靈社いつれも

本尊ハ阿弥陀如来なり 中にも日吉山王の念仏堂は上七社の中の

第三聖真子権現の御本地西方浄土の教主慈覚大師の御作也。〇れ

は比如来は三世の仏母といへとも御ちかひ餘尊に勝れ御めく化仏」

とあり

日吉社秘密神道記（叡山 別―外―/4/155）

日吉社秘密神道記（外） 日吉社秘密神道記完 祝部行磨記

27・9×20・0 48丁

本奥書、元龜二年辛未九月十二日放火上古記録大乱之刻紛失畢 此分

新調也 追以鳥子紙可加清書写之

天正十壬午十一月万吉 社務上祖宇志丸三十七世裔孫——社務行丸七十一歳壬申生

——相伝行廣授于時寛永十四年丁丑十二月十日写之山門 西塔南三十五歳戊申生

谷 觀泉坊乘盛

進上 天海大僧正

維時延宝^{辛酉}年秋七月五日以讚佛堂本於般若谷一音院學僧為 山王

權現倍增威光 山鹿安全報恩謝德 山門横川都率谷住侶雞頭院暨者

圓朗藏

與書、貞享四丁^卯秋七月上旬以東塔北谷宝乘院藏本而遂一較訖 尤可

為全本歟 權少僧都法眼嚴覺識某書

日吉社秘密記〈叡山 無一坤29／9／829〉

日吉社秘密記^{号行丸記} (外箋)

日吉社^{卷上} 神道秘密記 祢宜正四位上大藏卿祝部宿弥行丸撰・日吉

社^{卷下} 神道秘密記 祢宜正四位上大藏卿祝部宿弥行丸撰 (卷首)

27・2×19・5 47丁

山門無動寺藏 (墨) 沙門真超 (朱)

本與書、元龜^{辛未}歲九月十二日^{辛未}放火云々 上古記録大乱之刻紛失

畢此分新調也 追以鳥子紙可加清書者也云々

天正^{壬午}十年十一月万吉 宇志九三十七世

裔孫 七十一歳壬申生 相伝 行伝 三十五歳甲生

本云 紙数三千一百三十二枚 日本国中大小神紙三千百三十二神表

之卷七十冊可調之云

于時天和三^{癸亥}曆九月吉祥日書写之畢 山門喜見院祐範

與書、嵯天和三^{癸亥}曆九月吉祥日書写之畢 山門喜見院祐範 (印)

(メモ) 山王御影向次第 所々神社之次第 社務中系圖 次々御影向次第

造立都合百八社之事八王子坂登山など

日吉社室町殿御社參記〈叡山 別一外5／4／165〉

日吉參社記 (外) 日吉社室町殿御社參記 (内)

24・4×17・3 46丁

本與書、本云右一冊不慮水得之一日一夜書写之早

元禄二年己巳三月廿一日 山門横川雞頭院住 法印大僧都覺深以件

本騰写

與書、叡峯雲八重立山梵篋溪戒定院蒙天 書

寬延四年 龍集辛未六月八日

(メモ) 印記なし

表紙右上に「將軍義滿公」、左下に「楞嚴院記家蒙天」とあり

將軍義滿公日吉參社記 (二五八／一三三三) の写し

日吉社室町殿御社參記〈叡山 無一乾28／20／804〉

日吉社室町殿御社參記 (外・扉・内)

27・2×15・0 43丁

山門無動寺藏 (墨) 沙門真超 (朱)

本與書、貞享三年秋八月既望以覺深僧都之藏本騰写 兜率谷雞頭院暨

者嚴覺

文化五年^{戊辰}春二月以横川雞頭院藏 探題僧正嚴覺手写之本令書写

之了 台嶺法曼院真超記之

奥書、文化十四年丁丑四月五日記 梶井宮御文庫古本遂校合畢 擬講

大僧都真超

(メモ) 応永元年の「室町殿」日吉參社に際しての諸行事(舞童、兎論

議等)の次第を記したも

日吉社礼拝講元起事(叡山 無|乾28/34/818)

日吉社礼拝講元起事(外箋) 礼拝講元起事(扉) 日吉社 礼拝講

元起事(内)

12・1×17・1 4丁

山門無動寺藏(墨) 沙門真超(朱)

奥書、文化三年寅七月以雞頭院書 右書写了 大僧都真超(朱)

(メモ) 後一条院御宇の万寿二年、祢宜希遠が託宣を受け、日吉礼拝講を

始めるにいたった由縁を記したもの

日吉神社記録(東大史料 3012/34)

現装 近江日吉神社記録 36・3×24・7

○日吉兵乱火災之記(外)

11・8×19・5位のもの 2丁 神織社司行丸筆記也

○日吉焼失兵乱記行丸筆(外)

山王百八社再造所

条々御縁日20・2× 4丁 以上二点の合写

仲全(と思われる印記あり)

(現) 奥書、右、近江坂本日吉神社記録 滋賀郡上坂本村 日吉神社

藏 昭和八年三月影写了

日吉神道記(叡山 無|乾28/6/790)

日吉神道記(外・内)

27・4×20・2 5丁

山門無動寺藏(墨) 沙門真超(朱)

本奥書、寛延四辛未年潤六月初以止觀院紅葉漢大僧都智川藏本書写畢

詔真如意金剛右亡師正覺院前執行探題前僧正豪真初詔真収納所庫藏

所納以本書之畢

寛政三辛亥年 習禪大僧都詔胤

寛政七年春 右以詔胤法印本書写之 護法金剛真超

日吉神輿入洛記(叡山 無|坤29/31/851)

応安年中日吉神輿入洛記(外・扉)

27・3×20・0 25丁

山門無動寺藏(墨) 沙門真超(朱)

本奥書、貞享戊辰春壬正月上元日謄写畢 希代勝事不及言話而已

台嶺兜率谷 雞頭院権少僧都嚴覺識(24ウ)

奥書、文化十一年甲戌秋以横川雞頭院藏探題 前大僧都嚴覺之本令書

写之者也 台嶺法曼院大僧都真超

(メモ) 目次は左記のとおりである

一、 統正法論述作事 九十九代後光嚴院御宇貞治六年丁未
南禅寺定山

一、 応安元年 戊申 壬六月廿一日政所集会議

一、 同年月日廿三日政所集会議

一、 請欲撤却南禅寺以下禅院歎状 応安元後六月日

一、 応安元年壬六月廿九日社頭三院衆會議

一、 同年八月廿日政所集会議

一、 同年月廿五日政所集会議

一、 多武峯牒無動寺衙

一、 神輿入洛禁裏及多々須法城寺南禅寺祇園整固

一、 同年八月廿九日八王子十禅師口人赤山四社神輿入洛

一、 定山禅師号原峯近遠流遠江国之官符

一、 応取進僧祖禅度縁 宣旨

一、 応安二年四月十七日政所集会議

一、 応安二年己酉四月廿日大宮二宮聖真子三宮神輿入洛 祇園三
社神輿振之

一、 南禅寺桜門破却之 繪旨

一、 南禅寺桜門破却 応安二七廿八至八月三日

一、 応安二年八月三日神輿帰坐

一、 依無神輿造替七社神輿入洛 応安七甲寅六廿

一、 依申室町殿神輿帰坐 百代後内院院康暦元己未六八

一、 康暦一 庚申 六月神輿造替

一、 同年月廿九日新神輿坂本奉入之

一、 同年一二月一五日日吉祭社

日吉神輿入洛見聞略記 叡山 無一坤 29 / 32 / 852

日吉神輿入洛見聞略記 (外・扉・巻首)

23・3×16・8 8丁

山門無動寺藏 (墨) 沙門真超 (朱)

本奥書、*一冊以水戸彰考館御藏本令書写之畢 宝永三天丙戌首夏一

日僧正聚寛 正徳紀元十月下浣繕写 探題法印嚴覚

奥書、文化十二年亥正月以雞頭院藏嚴覚大僧正之本令書写之者也 台

嶽法曼院大僧都真超

(メモ) 2才巻首題につづき

「応安元年戊申八月廿八日山門大衆頂戴神輿忽入洛……」とあり。

以下

・ 同二年己酉四月廿日 ・ 同七月廿八日 ・ 同七年甲寅六月廿日

・ 永和元年 (記事なし、年記あり) ・ 同二年 ・ 同三年 ・ 同

四年 ・ 康暦元己未壬四月十四日 ・ 康暦二年庚申六月の記事あり

り

日吉知新記 叡山 別一外一9 / 154

日吉知新記 (外) 日吉知新記 (扉)

日吉山王知新記巻上 日吉山王知新記巻中 (巻首) 巻下も同じ

27・2×19・8 上―51・中76・下―56丁

本奥書、本記曰 承安四年歲次甲子八月廿九日於齋寺禪庵 沙門顯真

記文

承安四年歲次^{甲子}十月七日以^ニ震筆御本^ヲ於^ニ瀧禪院字窓^ニ書寫畢 延

曆寺沙門仁全記(50丁ウラ)

正応二年歲次庚寅三月二十八日以^ニ仁全法印之真筆本^ヲ於^ニ梶井房三明

之孝窓^ニ謹書寫畢 天台沙門義源判(51丁オモテ)

(五行略)

奥書、文保二年歲次戊午八月一日記之

惣持院十四現師三部灌頂阿闍梨位真如金剛義源判

和光同慶利益灌頂(叡山 無―坤29/16/836)

和光同慶利益灌頂 山王記並印信(外)

山王記並印信(扉) 和光同慶利益灌頂(卷首)

27・2×20・1 24丁

山門無動寺藏(墨) 沙門真超(朱)

本奥書、天台一流相承秘書唯授一人之外不可授之可秘^{々々} 不可有聊

尔若為率爾者山王冥 神可蒙御爵者也

応永廿二 五月十三日 権少僧都法印幸運示

貞享改元四月廿四日 祭禮日以山本房惠照本為山王權現倍增威光報

恩謝德書寫之 寫本者從濃劬南宮書^云 横川兜率谷 雞頭院藏

繁譚 和南(以上17丁ウラから18丁オモテ)

19丁から「感應一心三觀血脈相承次第」

貞享元年五月三日飯室谷以山本房惠照本為報恩謝德書之 兜率谷雞

頭院藏(22丁)

23丁オモテから「山王秘文密印」

貞享改元五月三日黄昏時以山本房本書之 越野軒藏(23丁ウラ)

奥書、文化十三年十月下旬以探題大僧正藏覺自筆寫本令寫之者也 台

嶽法曼院擬講大僧都真超